
大決戦!!超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大決戦！！超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～

【Zコード】

N4033Y

【作者名】 ターザン

【あらすじ】

1999年、プリキュアがテレビ放送を開始した。つぼみ、えりか、いつき、ゆりはプリキュアの影響で様々な夢を作れる。

そしてある日、白い服を着た少年に出会う。それが全ての始まりだった・・・

主要登場人物紹介

登場人物設定

本編とは大幅に異なります。

花咲つぼみ 14歳

親もとを離れ祖母と暮らしている。少し内気だが明るい少女。将来の夢は自分の咲かせた花を沢山の人見せる事、しかしある事が原因で諦めてしまう。異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブロッサム。

来海えりか 13歳

家は服屋で姉のももかはモデル。

いつもテンション高い。姉に嫉妬してるが将来の夢は姉に似合う最高の服を作る事。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアマリン。

明堂院いつき 14歳

空手を習っており、将来の夢は世界一の空手家になることだが最近はスランプになっている。異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアサンシャイン。

月影ゆり 14歳

つぼみ、えりか、いつきにとつて姉のような存在。

成績優秀で天才と言われている。将来の夢は有名な大学に入学する

事だが天才という言葉はあまり好んでいない。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアムーンライト。

美墨なあた 20歳

タコカフェで師匠であるアカネの所で修業をしている。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブラック。

雪城ほのか 20歳

なぎさの幼なじみ。

タコカフェの店員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアホワイト。

九条ひかり 19歳

なぎさとほのかの幼なじみ。

タコカフェでバイトをしている。

異世界では伝説のクイーンの生命・シャイニールミナスであるが今作ではれつきとした人間である。

日向咲 20歳

両親の店パンパカパンで働いている。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブルーム（ブライト）

美翔舞 20歳

パンパカパンでアルバイトをしている、咲とは中学からの親友。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアイーグレット（ワインテ

(イ)

夢原のぞみ 20歳

教育大学の生徒である、教師になるため勉学に励んでいる。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアドリーム。

夏木りん 20歳

のぞみの良き親友。

アクセサリー・ショップ・ナツツハウスの従業員。異世界では伝説の
戦士プリキュア・キュアルージュ。

春日野うらり 19歳

人気アイドル。

のぞみ達と交流がありよく悩みなどをきいてもらっている。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアレモネード。

秋元こまち 21歳

のぞみ達の先輩。

少し名のある小説家である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアミント。

水無月かれん 21歳

大富豪の娘。

医療大学の学生。

こまち同様のぞみ達の先輩にあたる。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアアクア。

美々野くるみ 20歳

のぞみ達の親友。

いつでも自分に自信を持っている。
ナツツハウスでりんと共に働いている。

異世界では青い薔薇の戦士・ミルキィローズであり妖精ミルクだが
ひかり同様今作ではれつきとした人間である。

桃園ラブ 19歳

大人気ダンスグループ・クローバーのリーダーである。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアベリー。

蒼乃美希 19歳

モデルでありクローバーのサブリーダーである。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアパイン。

山吹祈里 19歳

獣医の玉子でありクローバーの一員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアパイン。

東せつな 19歳

両親が事故で他界しラブと一緒に暮らしている。
クローバーの一員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアパッシュョンでありラビリ

ンスのイースだが今作ではれっきとした人間である。

北条響 14歳

南野奏 14歳

黒川エレン 14歳

調辺アコ 9歳

白い服を着た少年に導かれプリキュアのいる世界からやつて來た。

主要登場人物紹介（後書き）

サブ登場人物紹介、本編説明の後本編に入ります。

サブ登場人物紹介

アカネ

タコカフェの店主

キリヤ

ほのかの彼氏。

異世界ではドックゾーンのダークファイブのメンバーだが今作では
れつきとした人間であり、善人である。

霧生満
霧生薰

姉妹であり咲達の親友。

異世界ではダークフォールのメンバーであり最後にプリキュア?に
なったが今作ではれつきとした人間である。

小々田コーデ

ナツツハウスの副店長。

のぞみに恋心を抱かれているが気づいていない。

異世界ではパルミエ王国の妖精・ココだが今作ではれつきとした人
間である。

夏

ナツツハウスの店長。

こまちに恋心を抱かれているが気づいていない。

異世界ではパルミエ王国の妖精・ナツツだが今作ではれつきとした人間である。

シロー

ナツツハウスの従業員。

うららの彼氏。

異世界では妖精・シロップだが今作ではれつきとした人間である。

カオル

ドーナツ屋の店主。

ミユキ

クローバーの師匠的存在である。

薰子

つぼみの祖母。

つぼみの憧れでもある。

異世界では50年前は伝説の戦士プリキュア・キュアフラワー。

その他妖精も出演

サブ登場人物紹介（後書き）

次は本編設定

本編設定

1999年『ふたりはプリキュアMAX heart』が放送。

後に『ふたりはプリキュアSS』

『YES!プリキュア5GOGO』

『フレッシュプリキュア!』

が放送されプリキュアシリーズは終了。

映画では『プリキュアオールスターズDXみんな友達奇跡の全員大集合』がロードショーされている。

物語の舞台は2011年、プリキュアはTVでしか存在しない世界。

本編で妖精だった者は元かられつきとした人間である。

本編とは大幅に設定が異なりますがご了承ください、では大決戦!
!超プリキュアオールスターZ!目覚める伝説の戦士!お楽しみください。

本編設定（後書き）

次回から物語執筆開始。
ですが受験が一週間をきつたので投稿はスローペースです。

1999年の夢

1999年…

『昔々… といつのは大げさですね。
それは今未来へ羽ばたこうとしている若者が様々な夢を持ち始めた
時代…』

4人の少女達が楽しそうに公園で遊んでいた。
おままごとや人形遊び…
その少女達はドーナツ屋に行つた。

「カオルちゃん…！ ドーナツください…！」

カオル「おっ！ つぼみちゃんにえりかちゃん、いつきちゃんにゆり
ちゃん来てくれたんだね？」

・・・・

えりか「おいしい…！」

つぼみ「やつぱりカオルちゃんのドーナツはおいしいですね…」

いつき「…あっ…！ カオルちゃん、今何時？」

カオル「今かい？ 今… 6時ちょっと前…！」

ゆり「た、大変じゃない…！」

カオル「どうしたんだい？ そんなに慌てて…」

つぼみ「明日からプリキュアが始まるんですーー！」

「つぼみ「だから今日はつぼみちゃんのお家にお泊まりするのーー。」

えりか「早くしないと寝坊しちゃつわよーー。」

ゆう「早くしないと寝坊しちゃつわよーー。」

4人は慌ててつぼみの家に向かった。

カオル「プリキュア？ ・・。」

カオルは何故か妙に嬉しそうに屋台に戻つて行つた。

・ ・・ ・・

翌日 AM8:25

つぼみ達「・ ・・ ・・」

つぼみの父「おはようさん・ ・・な、なんだ？ なんでつぼみ達一ヶ
仰視してんだ？」

つぼみの母「始まるみたいよ、前から騒いでたやつ。」

つぼみの父「ああ、なんか騒いでたな。」

・ ・・ ・・

AM 8:29

つぼみ達「・・・・・」

AM 8:30

『マックスハート！プリ・キュア！プリ・キュア！』

つぼみ達「始まつたあ！！」

『デュアルオーロラウェーブ！』

いつき「スゴオイ！」

ゆり「かっこいい！」

『プリキュア！マーブルスクリュー！マックスウウウウ！』

『ザケンナアア！？』

えりか「やつたあ！！」

つぼみ「プリキュアかっこいいです！！」

・・・・・・

『プリキュアが初めてテレビに登場した時、私達はとても大きな夢と希望をもらいました。』

つぼみ『夢や希望を捨てなければ必ずプリキュアが来てくれますー。』

『ー』

『そして私達は出会いました、白い服を着た不思議な少年に。』

えりか「見て見てーー」の服の絵可愛くない?」

こつき「素敵だよーー!」

つぼみ「す、こ、です、・、・、?」

つぼみがふと横を見ると、そこには白い服の少年が立っていた。

つぼみ「あなた・・・お前前は?」

少年「・・・・・」

つぼみ「一緒に遊びませんか?」

少年「・・・・うん。」

つぼみ達は少年と共に鬼ごっこで走り回っていた。

こつき「あ、見てーー流れ星ーー!」

ゆう「そうこええば今日たくさん流れ星が降るって言つてたわ。」

えりか「可愛い服を作れますよーー!」

つぼみ「私の咲かせた花を沢山の人々に見てもらえますよーー!」

いつき「世界中の人見てもいいの？」

つぼみ「いいえ、もっともっと沢山の人達です。プリキュアにも見てもらいます！…」

少年「…・・・」

つぼみ「あなたも何か願いを言いませんか？」

つぼみがそういつと少年は両手を組み願いを言ひ。

『それきり少年とは会わなくなり私達はプリキュアの夢と希望を忘れ、すっかり夢見ていたお姉さんになっていました。』

2011年…

つぼみ「ひええ！…遅刻ですう！…」

つぼみはすっかり中学2年生になり制服を着て通学路を全力疾走していた。

『タコカフエ』

つぼみ「なめなれど…おはよつぼみ！…何よまた遅刻？」

なめなれど「あひ、おはよつぼみ！…何よまた遅刻？」

つぼみ「田覚ましが壊れて…・・・ああ時間が無い…？では…」

なめらか「がんばつなれこよーーー。」

ほのか「なめらか、今の誰?」

ひかり「慌ててたみたいですが・・・」

なめらか「ああ、つぼみよつぼみ。」

アカネ「じじなめらかーーーたこ焼き焦げてるわよーーー。」

なめらか「げげつーーーヤバいーーー。」

・・・・・

『パンパカパン』

つぼみ「咲さんーーー舞さんーーーおはよーい! やれこまかーーー。」

咲「つぼみちゃんーーーこれいつものーーー。」

咲は袋に詰めたパンをつぼみに渡した。

つぼみ「ありがとう! やれこまかーーー。」

舞「頑張つてねーーー。」

・・・・・

『ナツツハウス』

つぼみ「みなさん……おはよひ」れこます……」

ナツツハウスには久々このぞみ、りん、ひな、じま、じまち、かれん、くるみが揃っていた。

のぞみ「ファイアだよつぼみちゃん……」

・・・・・

『公園』

つぼみ「クローバーのみなさん……おはよひ」れこます……」

ラブ「あつ……つぼみちゃん……頑張つて……」

・・・・・

つぼみは汗だくで学校にたどり着いた。

つぼみ「すみません……遅刻しま……した?」

しかしクラスの生徒に田もくれず窓に集まり外を見ていた。

つぼみ「あの……みなさん?……えりか、どうしたんですね?」

えりか「ああ、つぼみ。窓見てよ。」

つぼみ「窓?……な、なんですかあれ?」

・・・・・

別のクラスではいつきとゆりが空を見ていた。

いつき「ゆり、あれって・・・」

ゆり「ええ、蜃氣楼だわ。」

空には破壊された街の風景のような蜃氣楼が浮かび上がっていた。

つぼみ「・・・」

するといつぼみはいつの間に蜃氣楼の光景と酷似した場所にいた。

つぼみ「！」

「ザケンナアア！」

「ロワイナアア！」

つぼみ「！？」

つぼみは不気味な雄叫びがする場所を見た、そこにはどこか懐かしい怪物がいた。

つぼみ「か、怪物！？」

そしてつぼみの背後から眩い光が放たれた。
つぼみは振り返った。

つぼみ「ブ、プリキュア？」

そこには見たことのないプリキュアがいた、そして再び光が放たれたるとそこには大勢のプリキュアがいた。

つぼみ「一体・・・どうなつて・・・」

大決戦!!超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～

1999年の夢（後書き）

どうでしょうか？
「パクリyan」と思う人もいるかもしませんがよろしくお願ひします。

叶えなかつた夢

つぼみは再び見覚えの無い場所にいた、少しだまよつていると…

？？？「ほのか…ひかり…行くよ…」

つぼみ「？、なぎさわんにほのかわん、ひかりわん？」

「デュアルオーロラウェーブ…」

「ルミナスシャイニングストリーム…」

つぼみ「…」

するといつぼみは瞬時に様々な場所に移動させられる。

「デュアルスピリチュアルパワー…」

「プリキュア…メタモルフォーゼ…」

「スカイローズ・トランスレイト…」

「チヒインジ…プリキュア・ビートアップ…」

つぼみ「そんな…」

「あなたの思い通りにはさせない…」

つぼみ「あ…」

・・・・・

つぼみ「ブ、プリキュアです！？」

しかし、気づけばそこはなんの変哲もないいつも通りの教室、そして授業風景が広がっていた。

つぼみの言葉に笑いが起ころ。

つぼみ「あ・・・え？」

担任「花咲、遅刻のうえ居眠りとは・・・いい度胸ね？」

つぼみ「す、すいません！？」

ハハハハハハ！！

・・・・・

『数日後、妙な蜃気楼は消え、またいつも通りの生活に戻りました、私は出身の幼稚園に花についてお話をしていました。』

つぼみ「これはひまわり、太陽に反応してその太陽の方向を向くんです。」

園児「わかんない。」

園児「ねえねえチューリップは？」

つぼみ「えっとチューリップは・・・

園児「アサガホさんはあ？」

園児「ねえねえイチ！」お花ってどんなの？」

つぼみは園児達に囲まれ質問の嵐だった。

つぼみ「えっと……その……あ……」

つぼみはふと外に目を運ぶと「こには祖母・薰子がいた。

・・・・・

薰子「つぼみ、お疲れ様。」

つぼみ「あつがとつぱれこます、おばあちやん。」

薰子は缶ジュークをつぼみに渡した。

薰子「どうしたの？」こんな事で疲れるよつぼみじやなこはすよ
？」

つぼみ「いえ、最近変な夢を見てしまつんです。」

薰子「どんな夢？」

つぼみ「えつと……」

・・・・・

『パンパカパン』

えりか、いつき、ゆり「ながれさん達がプリキュアに！？」

つぼみ「・・・はい。」

咲「ほい、新作のパン！ 4人共試食してくれるから助かる・・・」

つぼみ（じー・・・）

・・・・・

「デュアルスピリチュアルパワー！」

咲「どうしたの？」

つぼみ「えつ、いや・・・」

舞「ちょっと咲！？パン焦げちゃうーーー！」

咲「ああ！？」めん」「めんーーー！」

咲はキッチンに戻った。

えりか「どうしたのつぼみ？」

いつき「まさか・・・」「

つぼみ「・・・咲さん達が・・・ふたりはプリキュアスマッシュスターに変身しました。」

つぼみは少し笑いながら答えた。

えりか「プリキュアって？」

いつき「あははは！」

つぼみ「それだけじゃないんです、ナツツハウスによく集まるのぞ
みさん達6人がプリキュア5go goに・・・クローバーのラブさ
ん達がフレッシュプリキュアに。」

ゆり「つぼみ、あなた大丈夫？」

いつき「そういうえば前もプリキュアを見たって言つてたよね。」

つぼみ「確かに見たんですけど、TVでは一度も見た事がないプリキュ
アの姿を。」

つぼみは不思議な空間で見たプリキュアの姿を思い出した。

つぼみ「ですが、私はそのプリキュアをよく知っている気がしたん
です。」

・・・・・

休日、つぼみは街を歩いていた。

つぼみ「・・・？」

あるとつぼみはまたしても不思議な空間にいた。

つぼみ「ま、また・・・」

ふと振り返るとそこには信じられない光景があった。暗黒に包まれた空には宇宙をも飲み込む邪悪な生命体、それに思いを込めて希望の力をぶつける女の戦士たち。

つぼみ「が、頑張ってくださいーーー！」

女の戦士たち「はああああああーーー！」

邪悪な生命体「馬鹿なああああーーー！」

つぼみ「や、やったあーーー！」

あると

? ? ? ? 「君だね？」

つぼみ「えつ？」

つぼみは振り返った、そこには4人の女がいた。

? ? ? ? 「私達を応援してくれたのは。」

・・・・・

そして気がつくとつぼみは元の空間に戻っていた。

つぼみ「今のは・・・」

つぼみはふと田をやると建物ではラジオのニュースの生放送をやっていた。

アナウンサー「では」」で、日本在中のアメリカの科学者、ブンビーさんに話を伺います。ブンビーから、先田出現した蜃氣楼をどう思われますか?」

ブンビー「えりですね~、これはあくまで私の推測ですが、世界の終わりを予言されるものではないでしょうか?はい。」

つぼみ「世界の・・・終わり・・・」

つぼみは何か胸騒ぎがした。

・・・・・

えりか「つぼみのせいで私まで変な夢見ちゃったよ。」

つぼみ「え? ?」

えりか「私がプリキュアになるんだよ、確か名前は・・・キュアマリンだったかな。」

ゆう「あら、あなたも?」

こつせ「じゃあゆうやえつかも?」

つぼみ「いつきも見たんですか！？」

いつき「僕はキュアサンシャインっていうプリキュアに変身するんだ。」

ゆり「私はキュアムーンライトっていうプリキュアになつたわ。」

えりか「すごい偶然だね。」

するとつぼみが切り出した。

つぼみ「もしかして・・・偶然じゃないかもしれないですよーーー！」

3人「えつ？」

つぼみ「ゆりは覚えてます？一緒にTVで見たやつですよーーー！」

ゆり「もしかして、パラレルワールドの事？」

えりか「な、何それ？」

いつき「自分と全く同じ人間が違う世界で暮らしてるっていう仮説だよ。」

つぼみ「その世界ではなきさと達はプリキュアかもしません！えりかやいつきやゆりもーーー！」

しかし3人は苦笑し始めた。

ゆり「つぼみ、あなた大丈夫？」

「いつき「僕たちが伝説の戦士なわけないだろ？」

えりか「やつだよ。」

つぼみ「あ・・・あははは、そつですよね、所詮夢は夢ですよね。」

・・・・・

7年前

つぼみ「どうして・・・どうして枯れてしまふんですか？」

つぼみは自分の花を咲かせるために懸命になつていて、しかしビタ
あがいても花は枯れてしまう。

つぼみ「夢は・・・夢だったんでしょつか。」

・・・・・

えりか、いつき、ゆりも同様の経験をしていた。

来海えりか

彼女はデザイナーを目指していた、モデルである姉・ももかに似合う衣装を作るために、しかし

ももか「あなたの衣装は、心がこもっていない、私はその衣装は着れ
ないわ。」

えりか「そんな・・・」

明堂院いつき

小さい頃から空手を経験しており、様々な大会で優勝してきたが・・・

「つぎ」「はあーーー。」

「だあーーー。」

「いつき」「ーーー。」

中学生になつてからは誰にも勝てなくなつていた、自分でも空手がなんなかわからなくなるくらい。

月影ゆり

彼女は周りから天才と言われていた。
自分でもそれを誇りに思つていたが・・・

「ゆりは本当に天才ーーー。」

「やつぱつあの学校にいくんだろ?」

周りからかけられるプレッシャーに耐えられなかつた、いつしか天才といつ言葉を嫌つよつになつた。

・・・・・・・

つぼみ（私達は夢を叶えられなかつた、いや・・・叶えなかつたん
ですね。）

つぼみ

叶えなかつた夢（後書き）

次回は、色々なサブキャラ登場

友人

『パンパカパン』

つぼみ達はパンパカパンで新作のパンを試食していた。

えりか「うわあ、おいしかったあ。」

すると

咲「みんな、これから時間ある?」

いつき「あ、はい。」

ゆり「どうしたんですか?」

舞「今日はお店は早仕舞い! ! !」

つぼみ「あ、今日はあの日ですか。」

3人「ああ、あの日ね! ! !」

そこに

????「咲! ! ! 舞! ! !」

????「久しぶり! ! !」

咲「満! ! ! 薫! ! !」

咲と舞の親友満と薰がパンパカパンを訪れた、するとじぞくじぞくと

なぎや「おっすー！」

ひかり「お久しぶりです。」

舞「あれ？ ほのかは？」

そして後から

ほのか「久しぶりー」

？？？「お久しぶりです。」

ほのかは彼氏であるキリヤと来た。

えりか「うわお～、彼氏のキリヤさんも連れて来た～、ほのかさんラブラブ～」

ほのか「か、からかわないでよーー！」

キリヤ「ほのか落ち着いて。」

・・・・・

のぞみ「パンパカパンの特製メロンパンくださいー」

りん「はしゃぐなーー！」

ナツツハウスのメンバーも来た。

？？？「ちよっと押すなよーー。」

「ひひひ「良こじゅんシロー」

「まち「お久しごり。」

かれん「みんな元気そうね。」

くるみ「ふたり共早くはいつましょーー。」

ナツツハウスの店長、副店長である「ページ」と夏、そして「ひひひの彼氏シローが来た。

「ページ」「いやあ、懐かしいなあ。」

夏「店内も騒がしいな。」

・・・・・

ラブ「イーイー！…幸せゲットだよーー。」

美希「もひひブつた。」

祈里「あら？」

せつな「私達が最後？」

？？？「だからもうと早くつて言つたのにラブが眞寝してゐから。」

ラブ「ミコキや～ん（涙）」

ダンスチーム・クローバーの生みの親であるミコキもラブ達と来た。

メンバーが揃つたとこで「ージ、夏、シロー、キリヤ、満、薰、ミコキは先に出発し、残つたみなは数分後ある所へ向かった。

りん「ほのかさんはラブで良いなあ

ほのか「だからからかわないでよーーー！」

ひるひる「わあ、照れます！」

咲「そういうひるひるもシローとラブでだよー

ひるひる「当然ですーーー！」

それを羨ましそうに見ていたのぞみとしまむち

舞「ちよつとふたり共、告白なら到着した時だよ」（小声）

のぞみ「なつ……えつ……？」

しまむち「何を言つて……？」

かれん「あら顔が赤いわよ？」

くるみ「このチャンスを逃したらもつたひないわ。

美希「直球が大事よ。」

せつな「野球でもするの?」

「うう」「いや違つよせつな(汗)」

つぼみ「みんなん樂しそうですね。」

アリス

なぎわや「んで、つぼみは自分の夢はどうなの?」

つぼみ「夢?」

なぎわや「お花咲かせるんでしょ?」

つぼみ「いや、今は・・・休んで・・・やめつー!」

つこじけやつこなるつぼみ。

えりか「何?」けでんのよ。」

こつき「動搖しそう。」

ゆう「まあ気持ちはわからなくもないけど。」

一同がある道にさしかかった時、その一同を睨みつける不気味な存在がいた。

? ? ? 「ふふふ・・・」

不気味な存在は手から黒く小さな竜巻を起こし周辺に撒き散らした。そして竜巻は周辺の人々に危害を加えた。

「あやああー！」

「うわあーー？」

竜巻により吹き飛ばされた子供。

竜巻により氣絶し車を暴走させる人。さらに竜巻により建物の屋上から大量の鉄パイプが落下する、その真下には集団下校する小学生達がいた。

なぎや「危ない！？」

するといつぽみが夢でプリキュアに変身したなぎや達がどんなに反射神経で人々を救出に向かった。

なぎや「ほのかーーひかりーー！」

ほのか「わかつてるーーー！」

ひかり「はーーー！」

咲「舞ーー！」

舞「うんーーー！」

なぎや、ほのか、ひかり、咲、舞は竜巻によつ吹き飛ばされた子供達を受け止めた。

のぞみ「みんなーー！」

りん「OK!...」

「ひひひ「は」...」

こまち「わかつたわ!...」

かれん「くぬみ!...」

くるみ「当然!...」

6人は落下する鉄パイプの真下にいる小学生達を全員抱きかかえて
その場から離れる。

鉄パイプが地面に落ちコンクリートを碎く。

ラブ「みんな!...」

美希「ええ!...」

祈里「助かるつて信じてる!...」

せつな「行くわよ!...」

4人は車に間一髪乗り込み運転手のシートベルトを外すが運転手は
かなり大柄でとてもどかす事ができない、そして目の前にはどんどん
ん大きくなる建物があつた。

美希「このままじゃぶつかる!...?」

ラブ「ブッキー!...せつな!...端っこで伏せて!...美希たん力貸し
て!...」

ラブと美希はハンドルを目一杯回し車を回転させ建物の衝突を回避、変わりに近くにあつた木にぶつかる、その衝撃で運転手の足がアクセルから離れ車は止まった。間一髪運転手を含めたラブ達は無傷ですんだ。

ラブ「し、死ぬかと思つた」・・・

いつき「す、すごい」・・・

えりか「まじ?」

ゆり「信じられない。」

つぼみは再びあの夢とパラレルワールドを思い出した。

つぼみ「夢とパラレルワールド・・・本当かもしれない・・・」

・・・・・

騒動はあつたが何とか終わり一同はあるステージが設置されたレスランに到着した。

「それでは!!ダンスチーム・クローバーによるダンス発表会です!!演奏、歌はクローバーのメンバーの友人により行われます!!ではお楽しみください!!」

キリヤ、満、薰、ヨージ、夏、シローは楽器で演奏を始め、なぎさ、ほのか、ひかり、咲、舞、のぞみ、りん、うらら、こまち、かれん、くるみは歌を歌い、クローバーはミユキと共に踊り始めた。

会場の人々「」

つぼみ達もそのダンスに気分がノリノリである、そしてつぼみはある事を思った。

つぼみ「やっぱり・・・そんな事ないですよね。」

つづく

友人（後書き）

次回ようやくあの4人登場

かつての憧れ

つぼみは再び幼稚園児に花の説明をしていった。

園児「アジサイって味がするのぉ？」

園児「ドライフラワーってなあに？」

相変わらずの質問の嵐だった。

つぼみ「ひ、ひとりずつ・・・ひとりずつ質問を・・・？」

しかし氣づくと周りには園児が消え自分一人になっていた。

つぼみ「え・・・みんなどこに・・・」

そして

「ザケンナアアアーー！」

つぼみ「ーーー」

つぼみは外に出た、そこには見覚えのある巨大生物がいた。

つぼみ「か、怪物ーー？」

ザケンナー「ザケンナアアアーー！」

つぼみ「ザ、ザケンナーーー？」

ザケンナーは周辺の建物を破壊し始める。

つぼみ「さやあ！？」

つぼみは腰が抜け動けなくなってしまった。

ザケンナー「ザケンナアアア！」

つぼみ「ゆ、夢なら・・・早く覚めてください！」

その時、つぼみの目の前から眩い光が発せられた。

つぼみ「えつ！？」

その光からは不思議な衣装を着た4人の少女がいた。

つぼみ「ま、まさか・・・」

「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロティー！」

「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

つぼみ「間違いありません、あれは・・・」

「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

「爪弾くは女神の調べ！キュアリゴーズ！」

「届け！4人の組曲！スイートプリキュア！」

つぼみ「本物のプリキュア！！」

スイートプリキュアと名乗る4人の少女はザケンナーに飛びかかった。

メロディー「はあ！！」

メロディーはザケンナーの腹を殴りつけひるんだところをリズムが飛び上がりザケンナーを蹴り倒す。

リズム「やあ！！」

ビート「ミューズ！！」

ミューズ「うん！！」

ビートはラブギターを取しビートソニックを放つ、ミューズはビートソニックで放たれる音符に捕まりザケンナーに近く。

ミューズ「だあ！！」

ビートソニックの勢いでミューズの蹴りはザケンナーを直撃、かなりの距離を飛ばされた。

メロディー「一気にたたみかけるよ！！」

リズム、ビート、ミューズ「わかつた！！」

4人はザケンナーに向かつて再び飛びかかった。

しかし、ザケンナーは突如形を変えた。

メロディー「何!?」

ザケンナーはナキワメーカーに変身した。

つぼみ「あれはナキワメーカー・・・たしか、オーリーがフレッシュプリキュアにゲスト出演した時の・・・」

リズム「姿なんて関係ない！！」

「…やわらかくへ行く」

そのナキワメーカーは膨れ上がった風呂敷に様々なお面がつけてあつた。

スイートプリキュアは吹き飛ばされる。

つぼみ「プリキュアが・・・」

ミユーズ「意外とやるわね・・・」

ビート「別方向からそれぞれ攻撃しましょう！！」

リズム「OK！」

メロディー「いくよー!」

メロディー達は素早く別々に別れ移動しナキワメークを錯乱させ攻撃しようとする。

しかし、ナキワメーカーはまるで全て見えているよ! メロディー達をなぎ倒していく。

メロディー「くつ、なんで私達の行動が全部読まれてるのー?」

リズム「これじゃあ攻撃出来ない・・・」

ナキワメーヶはプリキュアをさらに攻撃する。

つぼみ「ど、どうすれば・・・あつー。」

つぼみはかすかな記憶を思い出した。

のか。

メロディー「まずこみ、いのまめじゅ・・・」
つばみ「怪物さんー。」

つぼみはナキワメーカーを呼んだ。

リズム「あ、あれは！？」

つほむ「今ですーー！」

ビート」や、そうだ、意識があの子に行ってる間に……」

「ゴーズ「一氣に行」」

メロディー「う、うん……」

メロディー達は不思議な箱を取り出した。

「出でよ、全ての音の源よ。」

すると不思議な箱から翼を広げた宝石のような妖精?が現れプリキュア達はその妖精?で身を包む。

メロディー「届けましょ、希望のシンフォニー！」

「プリキュア！スイートセッションアンサンブル・クレッシェンド……」

エネルギーに身を包むプリキュア、そのままナキワメーカーに直撃しプリキュアは着地した。

「フィナーレ……」

ナキワメーカーは浄化され消えた。

つぼみ「やつた……あ。」

しかし、つぼみはまだ困惑っていた、何故ならテレビの中の存在であるプリキュアが目の前にいるからだ。

メロディー「つぼみちゃんだよね？」

つぼみ「えつ？」

つぼみは驚いた。

何故プリキュアが自分の事を知っているのか。

つぼみ「あなたがたは誰なんですか？」

・・・・・

そして気がつくと破壊された建物などが元通りになつておりいなかつたはずの人々が当たり前のよう歩いていた。

つぼみ「元の空間に・・・ってああ！？」

ただ違つたのは、プリキュアが元の空間にいた。
そしてプリキュアの周りには園児達がいた。

園児「かわいいお洋服だねえ！？」

園児「何でこんな格好してるのあ？」

メロディー「えつ、あのー？」

リズム「じめんねー！今忙しいからーー！」

ビート「じょとひつ張らないでーー！」

メロディー「どうあんのーの状況ーー？」

つぼみ「た、大変です！？」

つぼみが園児達からプリキュアを引き離しとりあえず人気のない場所に連れて行つた。

・・・・・

プリキュアは変身を解き、元の姿に戻つた。

響「本当に私達の事知らないの？」

つぼみ「はい、多分この間まで私はあなた達の世界に度々入り込んでましたが今度はあなた達が私の住む世界に迷い込んだ・・・プリキュアがいる事も驚きました。」

エレン「え・・・何故？」

つぼみ「あなた達の世界だとプリキュアは正義のヒーローとして存在してるかもしれませんが・・・この世界は違うんです、プリキュアもさつきの怪物も空想の存在で・・・物語の中にしかいない世界・・・なんですね。」

4人は少し残念がつた表情を表した。

当然だらう、今までプリキュアはあらゆる世界を救つてきたがその正義のヒーローが存在しないというのだから。

アコ「・・・そうだ！？」

アコが何かを思い出した。

アコ「私達、不思議な気配を感じてある屋敷に行つたの。」

・・・・・

アコ「達は自分達に何があつたか説明しました。

響『そういう、で氣配を感じる方に向かつたら・・・

奏『不思議な少年に出会つたの。』

エレン『白い服を着た少年に。』

つぼみ『白い服の少年?』

アコ『その少年に言われたの。』

（今、侵略者が僕の大事な世界を支配しようとしているんだ・・・
その世界の伝説の戦士を自覚めさせ、世界を救つて。）

・・・・・

つぼみは「白い服を着た少年」という言葉に何か引っかかった。
そして伝説の戦士に匹敵した人物が頭に浮かんだ。

つぼみ「もしかしたら・・・ついてきてください……伝説の戦士になる人物を私は知ってるかもしません！！」

響達はつぼみの発言に驚き期待の表情を表した。

夢を捨てない者

テレビでは先日出た蜃氣楼についての放送がされていた。

『タコカフエ』

ほのか「なんか不気味ね。」

ひかり「まさか世界があの蜃氣楼みたいになるんじゃ・・・」

なぎさが切り出した。

なぎさ「大丈夫大丈夫、もしもの時はきっと来てくれるよ。」

なぎさはほのかとひかりの肩に手を回す。

ほのか「来てくれるって・・・」

ひかり「誰がですか?」

なぎさ「伝説の戦士ってやつ?」

そこには

つぼみ「こんなにやばい。」

つぼみが響達を連れてきた。

なぎさ「ああ、つぼみ・・・その子達は?」

つぼみ「じ、実は・・・」

するといきなり

響「なぎわせーー！」

響がなぎわせで駆け寄る。

奏「ちよつーー？」

Hレン「ああ・・・」

アコ「心配事が早速・・・」

なぎわ「ちよつと、あなた誰？」

響「どうじちやつたの？いつそんな大人っぽくなつちやつたの！？
それにはのかやひかりも！！」

ほのか「大人っぽくて・・・」

ひかり「なぎわさんとほのかさんは20歳ですし私は19歳で・・・

「

響「ええーー？」

つぼみが響を掴みだした。

つぼみ「すみませんなぎわさん！知り合ってなぎわさん達と瓜二

つの人達がいるらしくて・・・次、行きましょうか・・・

なぎさ「あ、ちょっと引つ張ら・・・」

なぎさ達はただ啞然とするしかなかつた。

・・・・・

『パンパカパン』

響「咲！舞！！」

つぼみ「ちょっ・・・」

咲「え・・・と・・・」

舞「どうあらさまですか？」

響「何言つてるのさ！..私の顔を良く見て！..」

咲、舞「・・・」

響がどんな決め顔をしても当然咲と舞にはわからない。

・・・・・

『ナツツハウス』

コージ「りん、また新作かい？」

りん「はい、急にインスピレーションが働いて…」

の「おみ「すつ」」を「...」

うらら「そのアクセサリー、私の今度のライブで付けたいです！！」

夏一何を言つてるんだ、店の商品だぞ?」

りん「大丈夫ですよ、何個か作るので…」

「おお、あら？ あれだけ豊あわん？」

かれん 一 そうね、一緒にいる人達はお友達かしら?「

くるみ一妙に藩ち込んでるけど?」

こまちは知らない4人と話しているつぼみを見つけた。
そして

シロー「あーい、何やつてんだ?」

つぼみ「良いですね、今度は慎重に・・・あ、シローを・・・」

だがやはり恐れていた事が起つた。

響「シロツプ！！」

シロー「な、なんだよ、ていうかシロツツツって何だよー?」

の声が「どうしたの？」

のぞみ達がナツツハウスから出てきた。

響「うわあ！？み、みんながお、大人に…」

奏とエレンが必死に響の口を押さえた。

アコ「呆れた。」

つぼみ「はあ…」

・・・・・

『公園』

響「ラブ！？みんな揃って大人！？」

公園で、ダンスの練習をしているクローバーを見つけた響。

ミユキ「ラブ、知り合い？」

ラブ「む・・・・」

ラブは響をじっと凝視し…

ラブ「わかんない！！」

つぼみ「（やつぱし…）し、失礼しました！！」

つぼみは響を引っ張り出した。

響「私だよーーメロディーの響だよーー」

・・・・・

響「ながめや咲、のぞみやラブは勇敢なプリキュアだよーーでもーー

奏「この世界じゃーー普通の人だつたね。」

エレン「伝説の戦士はわかつたけど田観めさせれる方法がわからんないわね。」

アコ「響の取り乱す気持ちは確かにわからなくはないけどね。」

するといつぽみが

つぽみ「だ、大丈夫ですよーーあの人達はこの世界でも憧れられる存在ですから。・・・夢を捨てないといふか・・・いつまでも希望を持ち続けるといふか・・・だからきっと大丈夫ですよーー」

響「つぽみ・・・やつぽみの世界のつぽみもかわんないね。」

つぽみ「どうこう事ですか?」

響「つぽみも私達の世界だと・・・!」

響達は妙な気配を感じ取った。

つぽみ「どうしたんで・・・!?

あると町には黒い竜巻が発生していた。

つづく

生きた死

黒い竜巻は消えたと同時に怪物が現れた。

つぼみ「怪物！・・・・確か・・・あれはウザイナーーー！」

「ウザイナー」「ウザイナー！！」

ウザイナーは街を破壊し始める。

人々「うわああああああ！」？

つぼみ「でもどうして!? 私達の住む世界に・・・本物の怪物はないはずなのにー!?

響「きつと、何かが呼び寄せたんだよ。」

奏「その何がが」の世界を滅ぼそりとしてるんだわ。」

ウザイナーは次々に街を破壊していく。

エレン「このままじゃ街の人々が危ないわ！！」

アコ「戦わないと…！」

つぼみ「い、いくんですね?」

響「うん！！」

ପ୍ରକାଶକ

？？？「みん一や～！～！」

奏「あれ、ハミィ！？」

響達の妖精・ハミイがこちらに近づいてくる。

つほみ - よ
妖精!?

ハミヤーはミカサアーヴィング

「今はそれビリビリやなこでしょー?今までビリビリに行つてたのよー?」

ハミィ「セイレーン達とは違うと」ソルト飛ばされてたーヤ。」

アハーもう今は戻りでしょ！？変身は変身！…」

響達は慌ててキュアモジュールを取り出した。

精がはめ込まれる。

「ハッサクレイ!! ブラザア・ザシル=シムン!!」

4人は4色の衣に包まれ姿を変えた。

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ!! キュアメロディー!!」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！－キュアリズム！－」

ビート「爪弾くは魂の調べ……キュアビート……」

ミユーズ「爪弾くは女神の調べ……キュアミユーズ……」

「届け……4人の組曲……スイートプリキュア……」

メロディー達はウザイナーを押し倒す。
そして建物の屋上に着地し身構える。

・・・・・

その光景はテレビで生中継されていた。

キャスター「信じられない光景です、突如巨大生物と不思議な衣装を着た少女達が現れ戦っています。これは過去にテレビ放送されたプリキュアに酷似しています。」

『タコカフェ』

ほのか「怪物……」

ひかり「女の子?」

なぎさ「一体何が起つてるの?」

・・・・・

ビート「はつ……」

ビートはウザイナーの腕を蹴りつける。

ミコーズ「ええい！！」

ミコーズはウザイナーのもう片方の腕を蹴りつける。

メロディー「リズム！… 気に決めるよ！…」

リズム「OK！…」

メロディーとリズムは必殺技の体勢にはいる。
しかし

ウザイナー「ウザイナアアアア！…」

ウザイナーは口から光線を放った。

メロディー「ええ！…？」

リズム「きやあ！…？」

メロディーとリズムは吹き飛ばされた。

そしてビートとミコーズはウザイナーに掴まれてしまった。

ビート「きやあ！…？」

ミコーズ「うう！…」

ハミィ「だだだだ大ピンチだニヤアアアア！…」

「うむ、」口の声だけが響く。

ヴァイナーはピートとショーズを掴みながら辺りを破壊していく。

•
•
•
•
•
•

えりか「ちょっと何なのよあれ！？」

いつも「えりか落ち着いてーーー！」

ゆり「今は逃げる事が優先よ！！」

しかし破壊された建物がえりか達に落ちてきた。

えりか うわあああ！？

えりか達はそれを何とか回過
過難所に向かう

い、さ、ほ、み、は、こ、ん、な、時、は、何、を、・、・、・、・、

くに 一 ほみなら 一ノモカヌキ

• 6 •

『ナツツハウス』

のれぬ「ア」アーヴィング。

「さつきアクセサリーの材料を買いにお店へ！」

シロー「その店って確か！？」

「まち「今怪物が暴れてる所の近くよーー！」

のぞみ「わ、私行つてくるーーー！」

りん「ちょっとのぞみーーー！」

・・・・・

その頃コージは店を出て避難するとこりだつた。

？？？「うわあーーー！」

コージ「ーーー！」

コージの後ろでは足をくじいた老人が倒れていた。

コージはその老人に駆け寄る。

コージ「大丈夫ですかーーー！」

しかし、その時ウザイナーは建物を破壊しコージ目掛けて瓦礫が落ちる。

コージ「うわあああーーー！」

コージは必死に老人に覆い被さる。

・・・・・

ビート「いい加減に・・・」

///コーズ「して!-!-」

ビートと///コーズはウザイナーの腕を振りほどき蹴り飛ばした。

ビート「メロディー!-!-リズム!-!-」

メロディー「わかった!-!-」

リズム「いくわよ!-!-」

ウザイナーは光線をメロディーとリズムに放つがメロディーとリズムは軽快なステップを踏み手をつないで突き出す。

メロディー・リズム「プリキュア!-!-パッショナート・ハーモニー!-!-」

パッショナート・ハーモニーにより光線は相殺された。

ミコーズ「一気に決めよう!-!-」

4人はヒーリングチエストを使った。

「出でよと全ての音の源よ・・・」

ヒーリングチエストからクレッシェンド・トーンが飛び出した。

メロディー「届けましょ!、希望のシンフォニー!-!-」

「プリキュア！－－スイートセッション・アンサンブル！－－」

スイートプリキュアは光をまとこウザイナーを貫く。

「フィナーレ！－－」

ウザイナーは浄化され消えた。

つぼみ「や、やつた！－－」

しかし

?・?・?「あらあら、やつぱつ！」の世界にも来たのね。」「

つぼみ「えつ！－？」

つぼみは振り返った、そこには蛇のよつた髪の毛をした女が立っていた。

つぼみ「ア、アナコンティ－？」

メロディー「つぼみ－－」

メロディー達がつぼみの所へ駆けつける。

アナコンティ「邪魔だ。」

つぼみ「み、皆さん！－－田を開じてください－－。」

リズム「えつ・・・」

ビート「あれ……体が動かない……！？」

ミューーズ「うそ……」

メロディー「か、体が石に！？」

アナコンディの目は相手を石化する力を持つているのだ。

メロディー「た、助け……」

そしてスイートプリキュアは4人共完全に石化してしまった。

ハミィ「いやんとお！？」

アナコンディ「貴様も邪魔になるな。」

ハミィ「いやあ！？」

アナコンディはハミィも石化させた。

つぼみ「ス、スイートプリキュアが……」

アナコンディ「プリキュア、お前達は生きたまま死ぬ……お前はこの世界の人間か？」

つぼみ「！！」

つぼみは腰が抜け座り込んでしまった。

アナコンディ「弱い人間など興味は無い、せいぜい滅びの時まで怯えるがいい。」

アナコンディは姿を消した。

つづく

決意

スイートプリキュアが石化された日の夜、病院にコーディが運ばれた事を聞きつけたつぼみは病院に向かった。

『病院』

つぼみ「歯さん…！」

そこにはナッシュハウスのメンバーの一部がいた。

りん「つぼみ…！」

つぼみ「コーディさんは！？」

シロー「」の病室にいる。

うらら「のぞみさんもいます。」

・・・・

つぼみは病室に入った。

そこにはコーディの手を握りしめて何かを願うのぞみ、その様子を見る夏がいた。

つぼみ「のぞみさん…！」

夏がつぼみの耳元で囁いた。

夏「足をくじいた高齢者を助けて瓦礫の下になつたらしい……かれんが何とか応急処置を施して高齢者は助かったが……」「ページは意識がない。」

つぼみ「そんな……」

するとのぞみは

のぞみ「私……駆けつけたのに……何もできなかつた。」

つぼみ「のぞみさんのせいじゅ……」

のぞみ「守れなかつた……私は……好きな人を守れなかつた……」

つぼみ「……」

・・・・・

つぼみは病室から出た。

いまや「どう……だつた?」

つぼみは頭を横に振る。

かれん「そう……」

くるみ「ページさん……」

・・・・・

つぼみは病院を出たが激しい雨が降っていた。

つぼみは雨にうたれながら石化したスイートプリキュアの所にいた。

つぼみ「教えて・・・ぐださい・・・プリキュア。」

メロディー「・・・」

リズム「・・・」

ビート「・・・」

リゴーズ「・・・」

ハミィ「・・・」

つぼみ「伝説の戦士を田観めさせることで必ずわればいいんで
すか？」

しかしプリキュアはもちろん答える事ができない。

するとつぼみは背後に気配を感じ振り返った。

そこには白い服を着た少年がいた、その姿は何故か消えかかってい
た。

つぼみ「・・・誰ですか？」

少年「やつぱり・・・忘れてしまったんだね。」

つぼみには少年の言葉が理解出来なかつた。

少年「」のままでは世界はあいつらの物になってしまい・・・プリキュアの希望と夢が消え・・・僕も消えてしまつ・・・早く思い出して。」

つぼみ「何を思い出せばいいんですか！？あなたは一体誰何ですか！」

すると少年の姿は完全に消えてしまった。

つまみ「待ってください!!」

つぼみは雨にうたれながらどうすれば良いか考えていた。

そして何かを決意した。

•
•
•
•
•
•
•

えりか「また夢の話?」

翌日、つぼみは片っ端から自分の言つことを信じてくれる人にあの夢の話をした。

えりかはウサインが暴れたせいで豚屋である家のなかめでやぐれになっていた。

つぼみ「本当かもしれないんです！えりかはプリキュアかもしないんです！だから・・・」

えりか「つぼみ、今はそんな冗談に付き合つてる暇はないから。」

えりかはうつ語った。

つぼみ「・・・

・・・・・

つぼみ「つぼみ、君が羨ましいよ・・・こんな時までそんな夢を捨てないなんですか。」

つぼみ「信じて・・・くれないんですか?」

こつき「いじめん。」

・・・・・

つぼみ「ゆりならわかってくれますよね!/?パラレルワールドは本物であるって・・・

「わづ「つぼみ、遅いけれど・・・信じる事はできなつわ。」

つぼみ「ゆづまで・・・

・・・・・

薰子「伝説の戦士?」

つぼみ「はつ、なきとさと達ちえりか達も・・・

つぼみは祖母の薰子にしかもはや信じてもいられないと語った。

つぼみ「ねまおひやんなら、いじつて……へやめ……」

しかし

薰子「何を言つてこらの……」

つぼみ「えつ……」

薰子「何故今になつてそんな夢みたいな話?」

つぼみ「夢つて……夢じやなく本当かもしれなくて……」

薰子「つぼみ、あなた少し強引な感じがない?」

つぼみ「う、強引……?」

薰子「あの時は、自分で夢を諦めたんじやなかつたの?」

・・・・・

つぼみ「私は……やつぱつおねあひやんと一緒に暮らします。」

薰子「・・・・・」

・・・・・

薰子「あなたは夢を諦めた……いつも努力する事を忘れてしまつた……そして今度は夢を他の人に押し付けている。」

薰子の言葉に何も言えないつぼみ。

そして

つぼみ「確かに・・・私は夢を諦めました・・・強引かもしだせ
ん、でも、これだけは本気です・・・信じてほしいという気持ちは
本物です!!見てください!!」

つぼみはそう言いつと走り去つていつた。

・・・・・

街が混乱している中、突如地震のような物が発生した。
それはどんどん大きくなる。
そして地面から怪物が現れた。

? ? ? 「ネガトーン!!」

さらりに上空からも怪物が現れた。

? ? ? 「ホシイナー!!」

その2体の怪物は街を破壊し始めた。

つづく

それぞれの夢と希望

ホシイナー「ホシイナーーーー！」

ネガトーン「ネガトーンーーー！」

ホシイナーとネガトーンは街を破壊する。
そしてアナコンディも現れた。

アナコンディ「ふふつ、あんたも思つ存分暴れなさい。」

そう言つとアナコンディはデザトリアンを出現させた。
本来デザトリアンは人の心の花が枯れなければ出現しないが今回は
ただ暴れるという意思だけをもち現れた。

デザトリアン「あはははははーーー！」

アナコンディ「あはははははーーー！」

・・・・・

えりかは怪物が街を破壊する中家中を片付けていた。
そこにえりかの姉のももかが

ももか「えりか、避難警告がでてるわよ。」

えりか「ああ、もも姉・・・私ここに残るよ。」

ももか「し、正気なの？」

えりかは軽く頷いた。

えりか「もも姉、私の夢知ってるでしょ？もも姉に似合つ最高の服を作る事・・・それでコンテストでも結構良い結果だった、でも・・・」

『あなたの衣装には心がこもっていない、私はこれを着る事はできな
いわ。』

ももか「えりかの衣装には個性がなかつたのよ、私に衣装を着て欲しいならえりかにしか作れない衣装を作りなさいって私はその後言つたわよね？」

えりか「うん・・・でも自分でも自分の個性がわからなくなつてさ・・・」

ももか「まさかあなた・・・それを未練にこじで死ぬわけー！？」

えりか「・・・そうかもしない。」

・・・・・

「いつき」・・・・はあ。」

いつきは自分の家でため息をついた。

「いつき「ゆ、ゆりー？いつの間にー！？」

いつき「ゆ、ゆりー？いつの間にー！？」

ゆり「いへり呼んでも返事がないんだもの。」

こつせ「「」、「」めん・・・」

ゆり「何か考え方?」

こつせ「うそ・・・夢の事や。」

ゆり「夢?」

いつき「世界一の達手家になる・・・そんな夢を昔は持つてたなあ
つて・・・」

ゆり「昔つてあなたまだ十代でしょ?まあわからなくはないわ・・・
私も周りから天才ばかり言われて・・・何かが自分にのしかつて
た。」

いつき「のしかつてた?・・・あ

『こつせは中学でも達手やつてこかるよ!』

『あつと有能になるんだろうなあ。』

いつきは今まで忘れていたある記憶を思い出した。

いつき（僕もゆりと同じ・・・知りず知りのつりて何かがのしか
かつてたんだ。）

ゆり「こつせ?」

いつき「あ、な、何でもない。」

・・・・・

同時刻、戦闘機が空中を旋回し、デザトリアン、ネガトーン、ホシイナーを狙い、ミサイルを打ち込んだ。

ネガトーン「ネガトーン！-！」

しかしネガトーンは特殊な音波でミサイルを撃ち落とす。

デザトリアン「あはれるうう！-！」

デザトリアンは戦闘機を破壊、ホシイナーは街を破壊していく。

ホシイナー「ホシイナー！-！」

・・・・・

数時間後

夜になり怪物達はさらに暴れて街は壊滅に近い状態になる。そして負傷者が次々と病院に運ばれる。

りん「ち、ちよつとまづくない！-？」

こまつ「こんなにも負傷者が！-！」

？？？「みんな！-！」

なぎわら達が駆けつけた。

「ひひひひ「なぎわらさん……無事だったんですねーー?」

なぎわら「あたまおよーーー。」

ほのか「ロージさんばーーー。」

かれん「まだ目を覚ましていないわ。」

ひかり「そんな・・・・・」

すると病室からなぎわらが出てきた。

くわみ「なぎわら、ロージさんばーーー。」

のぞみ「まだ意識は戻っていないよ、でも・・・握つてたロージさんの手に少しだけ力が入ったの。」

ほのか「いっしに帰つてこひまとしてるのね。」

のぞみ「ロージさんは私と夏さんとシローにまかせて、みんな街の状況を見てきてくれる。」

一同は顎を病院を出た。

運命の決意

つぼみは街を走り回り避難を呼びかける。

つぼみ「皆さん……！」は危険です……向こうに逃げてください……。」

人々はつぼみの言ひ通り逃げた。

つぼみ「はあはあ……あつ！？」

ホシイナーは建物を破壊、それにつぼみは巻き込まれる。

つぼみ「きやああー！」

つぼみは瓦礫の下敷きになりかけたが運良く空洞ができ助かった。

つぼみ「くつ……」

つぼみ「あ、危なかつた……」

つぼみは立ち上がり町の様子がよく見える場所に行つた。

つぼみ「私達の町が……」

そこには町を破壊するホシイナー、ネガトーン、デザトリアン、そして姿を変えたアナコンティイがいた。

つぼみ「あれはプリキュアを石にした怪人……この間……」

つぼみはあの少年の事を思い出した。

『早く思い出して。』

つぼみ「何を思い出せば……わかりません……私には何も覚えない……」

すると

「何言つてんの？」

「あなたは私達を支えてくれたじゃない。」

つぼみ「えつ？」

つぼみは振り向くとそこには咲と舞がいた。

咲「あなただけじゃなくえりかやこつき、ゆつも私達を支えてくれた。」

舞「夢と希望があれば必ずプリキュアが来ててくれる……それが私達は今まで頑張つてこれた。」

つぼみ「私達が？」

「やつだよ……」

するとクローバーのメンバーのラブ、美希、祈里、せつなが駆けつけた。

つぼみ「クローバーのみなさん！？」

美希「今まで私が完璧でいられたのはあなた達が夢を諦めなかつたから。」

祈里「最初はダンスできるか不安だつたけど・・・夢と希望を諦めない思いが自分を信じさせてくれた。」

せつな「私はクローバーに遅れて入つたからみんなに迷惑かけっぱなしだつた、でもね・・・あなた達に励まされて精一杯頑張らうつて思えたの。」

つぼみ「夢を諦めなかつた？」

ラブ「そうーー！おかげで私達は今以上にダンスを好きになれたし、幸せもゲットできたのーー！」

咲「いつもいつも試食に来ててくれて一番信頼したお客様だったよ。」

舞「ありがとー。」

つぼみ「・・・」

『夢や希望を捨てなければ、きっとプリキューが来てくれますーー。』

今まで忘れていた言葉を思い出した。

そして怪物達のもとに向かつて走り出した。

運命の決意（後書き）

次回、ついに！！

三 覚めた記憶

えりかはももかに言った。

えりか「もも姉、あなし行つてくる。」

ももか「行くつてどこに?」

えりか「つぼみに言われたんだ、私がプリキユアかもしれないって・・・だからその答えを見つけてくるよ。」

ももか「・・・わかつた。」

・・・・・

ゆり「いつき、行
きましょ。」
「いつき「う
ん。」

その時

「? ? ? 「待つて。」

薰子がいつき、ゆりのもとに来た。

薰子「つぼみが・・・何か決

意をしたみたいなの。」

いつき「つぼみが?」

薰子「つぼみに出来たらこれを渡して。」

薰子は自分のペンダント

を渡した。

ゆり「わかりました、行つてきます。」

薰子「怪我をしないようだね。」

いつき「はい、この世界は・・・滅んだりしません。」

・・・・・

つぼみは怪物のもとで駆けつけた。

ホシイナー「ホシイナー！！」

ネガトーン「ネガトーン！！」

「デザトリアン「あははははは！」

アナコンティ「あははははは！」

つぼみ「私達の町を・・・許せません。」

その時、ふと空を見上げると一筋の流れ星が流れた。
そして

『プリキュアの夢と希望が人々にいつまでもいつまでも勇気を与え
ますよ。』

つぼみ「・・・」

そしてつぼみは懐かしい光景が広がった空間にいた。
そこには4人の少女と1人の白い服を着た少年がいた。

少年「もし本物の怪物がこの世界に現れて
世界がピンチになつたら、君がプリキュアになつて助けに来てくれる？」

少女「はい、きっと・・・きっと助けにきます！」

それは幼き頃のつぼみだった。

まだ夢を捨てない純粋な心を持った頃の自分。
そして少年は現在のつぼみの方を見た。

少年「やつと……思い出してくれたんだね。」

つぼみ「……はい。」

・・・・・

つぼみは元の空間に戻ったと同時にあらゆる記憶が頭をよぎる。

つぼみ「そうだったんですね……今はっきりとわかりました……伝説の戦士……その1人が……私だつたんですね……」

『シャイで引っ込み思案な自分をチョンジするんです……』

『あなたはなんのためにプリキュアしてきたんですか……？』

つぼみ「私達の町をこんなにして……私、堪忍袋の縒が切れましたああ……」

その時、不思議な光と共に妖精と不思議な道具が現れた。

？？？「つぼみ……思い出すのが遅いですか……？」

つぼみ「いめんなさい……シフレで良いくんですよね？」

シフレ「はいです……」

つぼみ「シフレ……行きますよ……」

つぼみは不思議な道具をスライドさせる。

シプレ「プリキュアの種！－いくですう－！」

シプレの胸のマークから赤い種が出てきた。

つぼみはそれを道具にはめ込みスライドさせる。

つぼみ「プリキュア！－オープスマイハート－！」

つぼみは道具から出される香水のようなものを浴び姿を変える。シプレはマントにかわりつぼみに身にまとわれた。

「大地に咲く一輪の花！－キュアブロッサム－！」

膨大な光が放たれそこからキュアブロッサムが現れた。

・・・・・

薰子「・・・つぼみ？」

人々は戸惑う。
すると

？？？「プリキュアだよ・・・ねえ志穂！？」

志穂「そうだよそうだよそうだよ莉奈！－プリキュアが来てくれた
！？ねえ美香！？」

美香「これは新聞の記事になる！－頑張れ！－プリキュア！－」

人々「頑張れ！－頑張れプリキュア！－」

「プロッサムが戦闘体勢に入る。」

「プロッサム「行きます！！」

ネガトーン、ホシイナー、デザトリアンはプロッサムに襲いかかる。プロッサムは空中を旋回しデザトリアンを蹴り倒す。

「プロッサム「はあ！！」

さらにプロッサムはホシイナーを殴りつけ、後ろから襲うネガトーンを蹴りつける。

・・・・・

えりかは町の光景がよく見える場所にいた。

えりか「あれ？ いつきとゆりじやん。」

ゆり「えりか？」

いつき「えりか、わかるかい、あのプリキュア。」

えりか「うん、つぼみだよね。」

・・・・・

つぼみ「はあ！！」

最初は怪物を応戦していたがアナコンティが目から光線を放ちプロッサムを吹き飛ばす。

「プロツサム「ヤアホーー?」

えりか「つぼみーー！」

ゆつ「つぼみは今、自分にできる事を精一杯やつてる。」

いつき「僕たちもやるべき事をやるんだ。」

ネガトーンは音波を放ちプロツサムを苦しめる。

アカヒンホイ - 貴様も石になつてしまあえ!!

アカコソテイは田を光らせアロッサムを徐々に石化せし。

フロッサムー あ、足か!?」

シハラ・トトロの世界

えりか つまみ・・・」

『私は、プリキュアやるわ。』

『プロッサムは休んでて！』

『海より広い私の心も、ここからが我慢の限界よ！』

「いつき」・・・・・

『兄さんのために僕はどうしたらいいんだ〜〜〜』

『これが・・・私?』

『その心の闇、私の光で照らしてみせる!〜〜〜』

『ゆり』・・・・・

『あなたが私自身とはどういう事なの〜〜〜』

『全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける!〜〜〜』

3人はふとささやかな記憶が頭に浮かんだ。

えりか「待つてなさいよつぼみ。」

いつき「僕たちが・・・・・

ゆり「今行くわ。」

すると3人は光に包まれつぼみ同様変身アイテムと妖精が現れた。
しかしゆりには妖精はいなかつた。

えりか「コフレだよね。」

「コフレ」はいですう〜〜〜

いつき「ポプリ。」

「ポプリ」「やつと思ひ出してくれたでしゅ……」

ゆり「行くわよ……力を貸して、コロン……」

「コフレ、ポプリ「プリキュアの種……いくです（しゅ）う……」

コフレとポプリは青と黄色の種を生み出し、ゆりは手をかざすと紫色の種が自然と現れた。

3人は種をアイテムにはめ込む。

3人「プリキュア！…オープンマイハート！…」

3人の姿はみるみるうち変わっていく。
そしてコフレとポプリはマントとなりえりかといつきに身にまとわ
れ、ゆりは胸の薔薇に手を当て自らマントを身にまとった。

えりか「海風に揺れる一輪の花！…キュアマリン！…」

「いつき「陽の光浴びる一輪の花！…キュアサンシャイン！…」

ゆり「月光に汎える一輪の花、キュアムーンライト！…」

3人はプリキュアに変身した。

それを見た薰子は

「薰子「えりか、いつき……それにゆりまで……」

「マリン、サンシャイン、ムーンライトは手から光を放ち石化してい

くブロッサムを解放した。
人々はそれを見て安心した。

マリン「ブロッサム！！大丈夫？」

サンシャイン「体勢は整えられる？」

ブロッサム「3人共・・・来てくれると信じてました！！」

ムーンライト「当然でしょ？あとこれ薰子さんがあなたについて。」

ブロッサム「おばあちゃんが・・・ありがとうございますーーー！」

それを見たアナコンディは拳を握りしめていた。

アナコンディ「おのれえ・・・」

4人は怪物を睨みつける。

「ハートキヤツチー！プリキュアーー！」

ここに花を司る伝説の戦士・ハートキヤツチプリキュアが揃つた。

つづく

■覚めた記憶（後書き）

次回はハートキヤツチプリキュアが世界のために戦う！！！

花の戦士

ハートキヤツチプリキュアは怪物と向かい合い戦闘体勢にはいる。

アナコンディ「邪魔はさせるかあ！！」

アナコンディを含む怪物はプリキュアに襲いかかる。

ブロッサム「行きますよーー！」

3人「ええー！」

ブロッサムはアナコンディ
マリンはネガトーン
サンシャインはデザトリリアン
ムーンライトはホシイナー
を担当し戦闘を開始する。

ブロッサム「はあーー！」

アナコンディ「だあーー！」

ネガトーン「ネガトーンーー！」

マリン「どうやあーー！」

サンシャイン「はつーー！」

デザトリリアン「たおすうーー！」

マーニー「まああーー！」

ホシイナー 「ホシイナー！！」

•
•
•
•
•
•
•
•

別の場所ではラブ達と咲達のもとになぎと達とのみ達が駆けつけた。

「アブ「はれで」の声おーー。」

なぎさ「あの子達が戦つてるんだね。」「

のそみーこの世界を守るために。」

「…」

ホシイナー 「ホシイナー！！」

ムーンライトはホシイナーの攻撃を素早く避けつかみかかり投げ飛ばした。

ムーンライト「だあああーー！」

ホシイナー 「ホシイナー！？」

人々「いつけえええ！！」

サンシャイン「だあーーーはあーーー」

サンシャインはテザトリアンに攻撃をせる間を与えず攻撃する。

そしてサンシャインはデザトリアンを蹴り倒した。

マリン「へへん、だいだい」

ネガトーン「ネガトーン！！」

マリンはネガトーンの攻撃を避け挑発をする。
しかし、ネガトーンの音波にマリンは吹き飛ばされた。

マリン「うわあ！？ ち、調子にのりすぎたかな？」

「ハントマン……真面目に戦うですか……」

「ほこほこ！ ほこほこ！」

マリンは高く飛び上がり

תְּמִימָנָה - תְּמִימָנָה

マリンショートでネガトーンを押し倒した。

アナ「ノンティ「はあーー」

「…やあ…」カムナロシブ

アナコンティとブロッサムの拳がぶつかり合つ。

アナコンティ「我々の邪魔はさせん！！」

ブロッサム「世界征服なんて邪魔するに決まつてます！！」

ブロッサムはアナコンティを掴み高く飛び上がつた。

アナコンティ「うおーーー！」

ブロッサム「くつーーー！」

アナコンティはブロッサムを蹴り飛ばし空中戦が始まつた。

アナコンティ「はあーーー！」

アナコンティは髪のよじな蛇を伸ばしブロッサムを襲つ。しかしブロッサムはそれをかわしアナコンティを蹴りつけた。

アナコンティ「ぐうーーー！」

ブロッサム「ブロッサムシャワーーー！」

ブロッサムはブロッサムシャワーを放つ。

アナコンティは撃ち落とされた。

アナコンティ「ぐああああーーー！」

「ハハハ」「マコンーーー今ですーーー！」

「マコン」「やるひしゅーーー！」

マコンはマリントラクトを取り出した。

マリン「花よ煌めけ！…プリキュア・ブルーフォルテウーブ！…」

マリントラクトから青く巨大な花のつぼみが放たれネガトーンを包み込む。

マリン「はあああーーー！」

マリンタクトのリボルバーのよひつなものを回しネガトーンを浄化、消滅させた。

人々「やつたあああーーー！」

サンシャイン「ポプリー！…行くよーーー！」

ポプリ「はいでしゅーーー！」

ポプリはシャイニー・タンバリンを取り出した。

サンシャイン「花よ舞い踊れ！…プリキュア・ゴールデフォルテバースト！…！」

多数のひまわりがデザトリアンを包み込む。

サンシャイン「はあああーーー！」

サンシャインはシャイニー・タンバリンを回してザトリアンを浄化、

消滅させた。

ムーンライト「私も続くわーー！」

ムーンライトはシルバータクトを取り出した。

ムーンライト「プリキュア・シルバーフォルテウェーブーー！」

銀色の花のつぼみがホシイナーを包み込む。

そしてムーンライトはタクトを回しホシイナーを浄化、消滅させた。

「うひうひ」「やりましたーー！」

舞「後はあの怪人だけねーー！」

ハートキヤツチプリキュアは並びアナコンディに向かって立つ。

アナコンディ「我々が・・・貴様うひごときに負けるかああああーー！」

アナコンディは髪のよみがね無数の蛇の目から光線を放つ。
しかし

サンシャイン「サンシャイン・イージスーー！」

サンシャインはサンシャインイージスで光線を防ぐ、そしてマリン
とムーンライトがアナコンディに接近する。

ムーンライト「ムーンライト・シルバインパクトーー！」

マリン「マコンインパクトーー！」

2人は衝撃波を放ちアナコンディの体勢を崩す。
そして目の前にはブロッサムがいた。

ブロッサム「これで・・・終わりです！！」

ブロッサムはブロッサムタクトを取り出した。

ブロッサム「花よ輝け！..プリキュア・ピンクフォルテウェーブ！」

ピンク色のつぼみがアナコンディに直撃、ブロッサムはタクトのリボルバーのようなものを回す。

ブロッサム「はあああ！」

アナコンディ「ぐああ・・・あ・・・」

アナコンディは浄化され消滅した。

人々「わあああ！」

薰子「やつた！..」

のぞみ「やつたあ！..」

りん「ちゅうとのぞみ抱きつくな！..！」

祈里「良かつた・・・私信じた。」

「マコン」「やつたね、ブロッサムーー！」

サンシャイン「あなたのおかげでプリキュアとして田原めいひれた。」

ムーンライト「あつがとひ。」

ブロッサム「みんなん・・・」

しかし、その時

（滅べ・・・）

ヘビ

花の戦士（後書き）

次回、伝説の戦士が！！

受験合格したんで本領發揮です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4033y/>

大決戦!!超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～
2011年11月27日18時00分発行